

苦渋の決断 / 国が方向性示して

国保料の大幅な引き上げを加入し、低所得者の割合が高決断した理由や望ましい医療くなっている。保険料を上げ制度のあり方について、大西秀人市長に聞いた。

「一気に保険料を上げた理由は。15年度からは国保財政の安定化のため、都道府県単位

の事業運営が行われる。2009年度までは10億円以下に収まっていたが、10年度以降、20億円を超えるようになった。これまでは何とかや

医療保険は国が責任を持つて一本化するべき。国保運営を都道府県単位で広域化するの

大西・高松市長に聞く



「国保は国が責任を持った運営を」と語る大西秀人高松市長

ってこれだが、立ちゆかなくなっている。苦渋の決断であり、被保険者の方にも申し訳なく思っている。

「現状の国保制度をどう見るか。国保に關してはほとんど議論が進んでいない。高松市の

ために高度成長期にできた制度。当時は自営業者や農業者が主な加入者だったが、社会構造の変化により、高齢者や

非正規労働者が大勢、方向性を示してほしい。